



かとう みえこ
加藤 美江子

こうめいとうぎいんだん
公明党議員団

生活困窮世帯の子どもへの支援策は

問 厚生労働省は、2018年度予算で、経済的に苦しい家庭の子どもに対する「学習支援事業」を拡充し、高校中退者らを含む10代の「高校生世代」の進学や就労に向けた支援を強化しているが、津市における高校中退者および中学校卒業後に進学も就労もしていない子どもへの支援はどのように考えているか。

答 国において、生活困窮世帯の子どもを支援するため、高校中退者や中学校卒業後に進学も就労もしていない人に対する支援を目的として、生活困窮者自立支援法の一部改正が行われた。これにより、学習支援のほか、生活習慣・育成環境の改善、教育および就労に関する支援について、平成31年4月1日から「子どもの学習・生活支援事業」として強化を図ることとされた。

この法律の改正に伴い、今年の夏ごろに県から市への改正内容等の説明会があると聞いており、津市においても、当該支援事業の内容や実施方法などを踏まえ、学習支援の在り方、実施方法等について検討していきたい。

●その他の質疑・質問●

- 危機管理部の役割について
- 女性の視点が活かされた防災対策は
- 避難所における安全対策と防犯対策は
- 避難行動要支援者名簿の活用
- 学校の防災対策について
- 地域包括ケアシステムの構築について
- 「津市在宅療養支援センター」の取り組みと進捗状況は など



▲医療と介護の架け橋としての津市在宅療養支援センター



りゅう じん けい すけ
龍 神 啓 介

しみん
市民クラブ

中学校における内申点の公平性は

問 中学校における内申点は、評価方法がかつての相対的評価から絶対的評価に変わって久しいが、市内各校また各々の教員によってばらつきが発生している現状がある。内申点が公立高校受験において大きなウエートを占める現状であるため、中学生への影響は非常に大きい。市内中学校における内申点の偏差の状況はどうか。その公平性をどう担保していくのか。

答 内申評価については5段階評定で行い、各教科において、関心・意欲・態度、思考・判断、技能、知識・理解のおおむね4つの観点別の評価をもとに決定しており、評価の方法については、各学校の創意工夫をもって行うこととなっている。

しかし、学校間、教員間において一定の統一性を保つといった評価の適正化に努めることも重要であるため、教育委員会としては、毎年、三重県教育委員会から提供される県内の評定分布のデータを各校に示し、各中学校代表の進路担当者によって構成される進路指導協議会等において、評価の適正化に努めるよう適宜指導している。

今後も、各校への指導を継続するとともに、評価のより一層の適正化に向け取り組んでいく。

●その他の質疑・質問●

- ICT教育、メディアリテラシーおよび主権者教育について
- 出産と育児の包括支援について
- 初期救急と二次救急の連携について
- 「地域ケア会議」の現状について
- (仮称)津市久居ホール管理運営計画(案)の事業の充実にむけた人的資源について など



▲(仮称)津市久居ホール事業の充実を目指して